



図書委員さんの「いちばん心に残っている本」第2弾をお届けします。
—あなたの心にいちばん残っている本はなんですか？

→ 蔵書あり



『ぼぎわんが、来る』
澤村伊智 著
KADOKAWA

僕のいちばん心に残っている本は『ぼぎわんが、来る』というホラー小説です。この本は映画化もされています。僕は、映画を観てから原作を読みました。この小説は3つの章で構成されているのですが、同じシーンでもそれぞれの登場人物の視点で描かれるため、登場人物一人一人への印象も章を追うごとに変化していきます。また、この小説は出てくる妖怪よりもドロドロとした人間関係の方が恐ろしく、登場人物同士の抱えている心の闇と妖怪「ぼぎわん」の引き起こす現象の2つの恐怖がとても印象に残っています。

(ペンネーム 地藏丸)



「青春ブタ野郎シリーズ」
1～11 (以下続巻)
鴨志田一 著
KADOKAWA

私がいちばん心に残っている本は、「青春ブタ野郎シリーズ」です。中学3年生の時、塾が終わって帰宅してテレビをつけると、このアニメが放送されていました。それが、この本を読んだきっかけです。どんなストーリーかというのはネタバレになるので書きませんが、私が今まで読んだ本の中で、トップクラスに感動しました。特に5巻や6巻は、学校で読んでいても泣いてしまうほどに感動しました。

(石井秀弥)



『謎解きはディナーのあとで』
東川篤哉 著
小学館

私が最近読んで一番心に残った本は、『謎解きはディナーのあとで』という本です。私はこの本と市立図書館で出会いました。ふと目に入ってきたので借りてみたのですが、4～5日で読み終わってしまいました。

この本は、刑事でお嬢様の主人公が解けない事件を、彼女の執事が見事に解き明かしていく、ミステリーとコメディが混ざった物語です。私はこの2人のやりとりや事件を解決するシーンが好きです。この本と出会って、私は何事も諦めない主人公に魅了されました。私はそういう人になりたいと思いました。作者の東川篤哉さんは、読みやすくてももしろいミステリーをたくさん書いているので読んでみてください。

私はこれからも、たくさん本を読んでいきたいと思っています。

(ペンネーム 向日葵)



春休みの貸し出し

2/15 (月)～

図書：5冊まで
雑誌：2冊まで

返却期限は4/16 (金)です。

